

<令和2年国勢調査 地地区別調査員表>

令和2年8月21日

各部落代表者様

樺原町企画財政課 企画政策係

令和2年国勢調査の実施について

5年に一度、10月1日を基準日として実施される「国勢調査」が、いよいよ間近に迫ってまいりました。本町においても9月14日から調査員が各世帯を訪問し、調査書類を配布いたします。

調査の際には、腕章と調査員証を身に付けた担当調査員（別紙1参照）が各世帯を訪問しますので、調査へのご協力をお願いいたします。

今年の国勢調査についても本町では従来どおり対面にて実施いたしますが、調査員は世帯の方々とできる限り一定の距離を保ち、必ずマスクを着用するなど感染予防の徹底に努めます。

※国勢調査についてのお問合せは、樺原町役場 企画財政課 企画政策係までお願いします。



【問合せ先】

樺原町役場 企画財政課 企画政策係

TEL : 65-1111

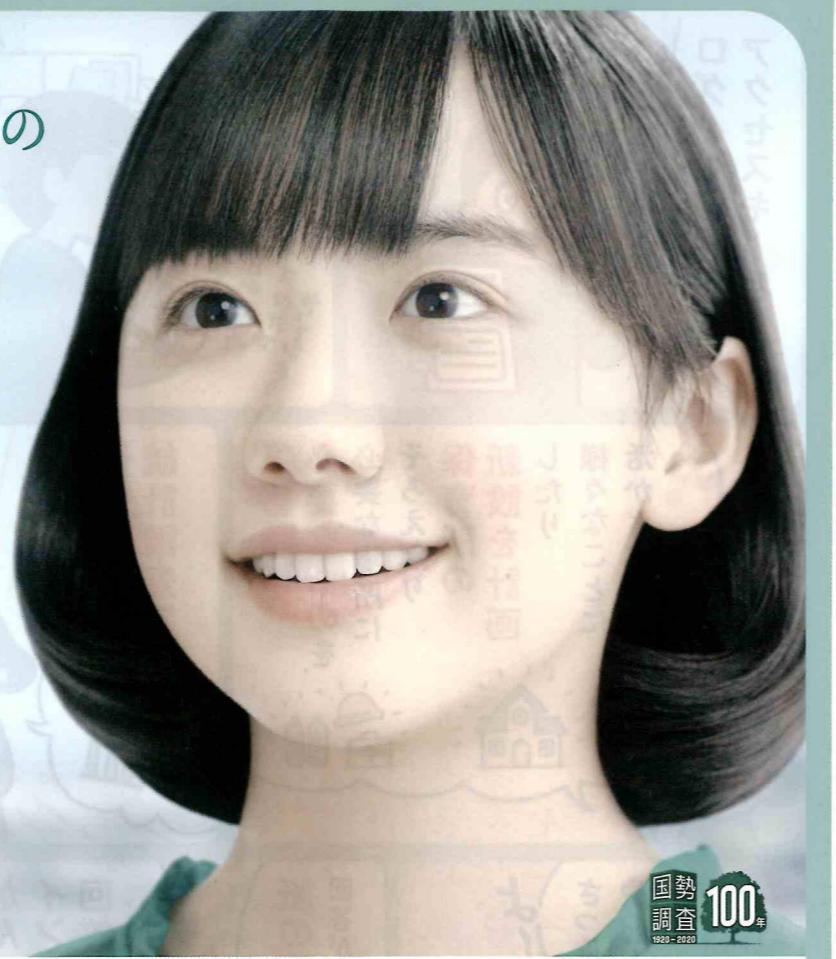
IP : **65-1111

区	部落名	調査員名	備考
越 知 面 区	横 貝	山本 智也	
	太 田 戸	山内 孝信	
	上 本 村	中越 紗耶果	
	下 本 村	高山 愛	
	井 の 谷	辻本 修丞	
	永 野	池田 朋宏	
	田 野 々 1	梶原 哲也	
	田 野 々 2	北村 明日香	
	指 導 員	中越 健三	
四 万 川 区	東 向	吉岡 まどか	
	富 永		
	下 組	高下 恵	
	中 の 川		
	東 川	横川 拓也	
	上 組		
	本 も 谷	吉岡 佳栄	
	茶 や 谷		
	井 高	中越 未来	
	坪 野 田		
東 区	文 丸	島村 香弥	
	神 の 山		
	坂 本 川	岩本 直也	
	六 丁		
	指 導 員	大川 真一郎	
	後 別 当	中越 絵里子	
	大 藏 谷	石川 智也	
	東 町	山本 正澄	
	中 町	来米 彩	
西 瀬 区	福 祉 施 設	芝田 浩之	
	北 町	来米 真子	
	南 町	来米 涼介	
	西 町	松本 裕子	
	川 西 路 1	中越 香菜	
	川 西 路 2	中越 裕也	
	川 西 路 3	掛橋 勝司	
	飯 母 1	宮岡 慎太郎	
	飯 母 2	兵頭 裕美	
	太 郎 川	川田 忠久	
松 原 区	神 在 居		
	仲 洞	笛木 保志	
	豊 原		
	川 井	川村 幸司	
	川 口	大町 祐希	
	指 導 員	来米 修作	
		二宮 健志	

区	部落名	調査員名	備考
西 瀬 区	仲 間	川上 博明	
	上 西 の 川	山本 周平	
	下 西 の 川	下元 時恵	
	竹 の 蔌	中越 千晴	
	広 野	岩崎 悅子	
	福 祉 施 設	竹本 未里	
	宮 野 々	西村 茂則	
	上 成 谷		
	指 導 員	明神 孝洋	
初 瀬 区	上 折 渡	下村 雪晃	
	下 折 渡		
	影 野 地	國本 夏也子	
	大 野 地		
	佐 渡	垣内 なつき	
	初 瀬 本 村		
	仲 久 保	竹倉 昌汰	
	指 導 員	上田 真悟	
松 原 区	松 大 向	久岡 俊彦	
	中 平		
	上 久 保 谷	下元 事美	
	下 久 保 谷		
	指 導 員	久岡 俊彦	
島 中	島 中	岡本 浩一	
	指 導 員	立道 斎	

日本に住む全世帯参加の 国勢調査はじまります。

5年に1度の日本で最も重要な統計調査「国勢調査」を、
2020年(令和2年)10月1日現在で実施します。
「日本に住む人や世帯」について知ることで、
生活環境の改善や防災計画など、わたしたちの生活に
欠かせない様々な施策に役立てられる大切な調査です。
みんなで参加して、みんなで日本の未来をつくっていく。
100年目の「#みんなの国勢調査」、
9月14日からインターネット回答がはじまります。



#みんなの国勢調査



国勢調査2020

<https://www.kokusei2020.go.jp/>



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

国勢調査をよそおった詐欺(さぎ)や不審な調査にご注意ください。

國勢調查2020



総務省統計局・都道府県・市区町村



かんたん便利なインターネット回答

いつでも
かんたん3STEP



24時間いつでもかんたんに
3ステップで回答できます。
(①アクセス ②ログイン ③回答)

回答サイトに
からなアカセフ



「国勢調査オンライン(回答サイト)」
には、QRコードもしくは検索か
らかんたんにアクセスできます。

厳重な
セキュリティ



回答いただいた情報は、厳重なセキュリティで保護されているので安心・安全です。

工コ & 効率化



書類を運ぶ際に発生するCO₂や事務コストを減らすことができるやさしい回答方法です。

＜森づくり担い手育成塾＞

『大きな刺激を受ける！四万十市林業』

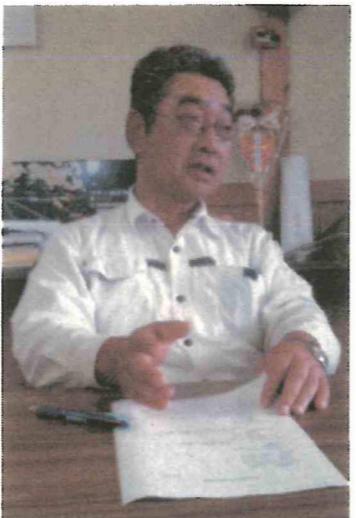
3月に予定していた四万十市林業の研修は、新型コロナウィルスに配慮して延期していましたが、ようやく実施できました。

四万十市農林水産課にお世話になり、中村市森林組合、森連の幡多共販所、四万十川の岩間沈下橋に近い昭和木材（株）の三か所を現地研修しました（7／16・17）。

中村市森林組合では、就任6年目の宮本昌博組合長から着実に進められてきた組織改革について説明を受けました。そして、実際の現場を案内いただいた時、生き生きと働く職員の姿を見て、森林組合の再生を肌で実感させられました。

かつて中村市森林組合は、県内の森林組合でワースト3といわれた時期がありました。ところが、最近は林業大学校の学生がインターンシップを希望するベスト3に入るそうです。塾生達も大きな刺激を受けていました。

（塾長：笠岡）



△熱弁する宮本組合長

＝ 塾生の感想1 ＝

中村市森林組合について（塾生：武田勇希）

中村市森林組合の現場へ視察に行き、現場の技術員の多さにまず驚きました。現在、コロナウィルスの関係で、林産（生産事業）が積極的に行えない状況もあり、技術員総出で再造林事業（地狩え）を行っていました。数名が灌木等を刈り払い、残りの者が整理し、植栽場所を作っていました。椿原町森林組合は、これらの工程を一人が行っていますが、人数が多いからこそできる効率的な方法と思いました。



△地狩えの現場で意見交換する塾生

中村市森林組合には決められた班構成がなく、また、現場に優劣はつけず、収益は技術員全員で平等に分配するという点に驚きました。春から夏過ぎにかけては、林産より造林事業をメインで行っているそうで、その点も椿原町森林組合とは違うやり方でした。林産をメインにする班は、造林事業を敬遠しますが、造林と林産の両方ができる中村市森林組合の技術員は素晴らしいと感心しました。

造林の仕事は年々減っていき、それに伴い造林の技術員数も減りました。一方で、若い担い手の育成は林産の方が多く、中村市森林組合のような林産と造林を両立できる人材は大変貴重だと感じました。今後の椿原の森づくりを行っていくには、造林の仕事をもっと重要視していく必要があると実感させられた研修でした。

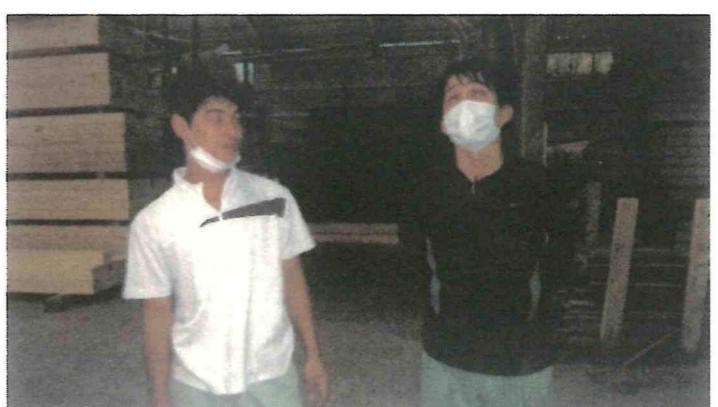
＝ 塾生の感想2 ＝

昭和木材株式会社について（塾生：畠山貴至）

昭和木材では、主製品としてヒノキの角材を製材している。副製品としては、野地板、チップ等があり、従業員数は10名とのこと。製材機器としては、台車、ツイン丸鋸、モルダー、乾燥機を備えている。椿原町森林組合よりも、製材機器は一回り小さく感じ、作業見学の際には、人力で角材やチップを運ぶ場面も見られた（椿原町森林組合のチップは全てベルトコンベア）。滝石浩正常務取締役は「機械修理の外注に、必要以上の時間と費用を要していることに気付いた。自社で修理することで、まずは修理費を半分程度まで減らした。」と言っていた。前職である電機メーカーでの経験、知識が、現在の製材に生かされており、昭和木材の強みのひとつだと感じた。

また、昭和木材では、角材をツイン丸鋸で挽く際に、あえて寸法を大きくして挽き、乾燥した後、再度、ツイン丸鋸で規定の寸法に挽いている。乾燥後にツイン丸鋸で挽く方法は、椿原工場では行っていない。常務は「あえて太く挽くことで作業効率は下がるが、他社にはない良い製品ができる。」と自信をもって説明していました。

最後に、この研修で一番印象に残ったことは、常務に前職を辞めた理由を伺った際、「大きな会社で製品を作っていた時には、製品の価値や部品の値段が見てこなかった。それが自分には合わなかった。今は、原木一本からできる角材や副製品のすべての価値と値段がわかる。やり甲斐を感じている。」と言われたことだ。私よりも若く（26歳）、まだ入社4年目にも関わらず、経営面を把握し、それをやり甲斐と感じていることに驚くとともに、大変刺激になった。



△滝石常務（左）から説明を受ける畠山さん（右）